

名門高校の校風と人脈

32

姫路西高校 (兵庫県立・姫路市)

質実剛健、自主創造、友愛協調 が校訓 国立大合格者多数

国家に指定され、世界文化遺産にも登録されている姫路城。その北側にある姫路西高校は兵庫県で最初の県立尋常中学校であり、多くの文化人や学者などを輩出してきた。

源を、1878(明治11)年に開校した六郡組合立姫路中学校に発する。1901(明治34)年に尋常中学から兵庫県立姫路中学と改称され、戦後の学制改革の時に公立姫路女子高校との折半交流が実施され、男女共学の県立姫路西高校となった。略称は「姫西」である。

50歳で東大合格

感嘆するニュースがあった。80(昭和55)年卒の50歳の主婦・安政真弓が12年春の東大入試で文科Ⅲ類に合格し

たのである。32年前に姫西を卒業した際には早稲田大に進学したが、次男が予備校に通うことになったのを機に一緒に受験勉強に励み、1日10時間の猛勉強を8カ月間続け、難関を突破した。

いずれも旧制姫路中学校の卒業であるが、史料に基づく実証的な日本史研究をした江善之助(古寺巡礼)「哲王などの著作で知られる哲学者、文化史家の和辻哲郎、それに落語家の桂米朝である。米朝は、落語界から2人目の重要無形文化財保持者(人間

国家)に認定され、09年に演芸界初の文化勲章受章者となった。

世界的に活躍している文化人としては、ファッションデザイナーの高田賢三がいる。60年代からバリで活躍し、異文化融合的なデザインで人気を博しブランドを確立した。本人を含め姉弟計7人のうち、5人が姫西の同窓である。



和辻哲郎



高田賢三

グラフィックデザイナーには、永井一正が大御所的な存在である。

小説家では英文学者、翻訳家でもあった阿部知二、姫路中学を中退した椎名麟三がいた。出版界では光文社社長を務め、かんき出版を創業した神吉晴夫と、祥伝社社長をした伊賀弘三員が果立っている。児童文学者の尾崎美穂は、姫西で初の女性生徒会長をした。渡部翠はフィンランド語の翻訳者である。

映画監督では、キユーボラのある街(など)わずかり本の作品しかつらなかつたが、吉水小百合や大竹しのぶを育てた名監督として称賛されている浦田輔郎がいた。

浦田と姫路中学同級だったのが、性格俳優の藤岡琢也であった。琢也の3年後輩に悪役で鳴らした藤岡重慶がいた。高橋ひろ子は女優、声優である。

映像プロデューサーの吉田

正樹はテレビ業界では有名で、フジテレビでバラエティ1などの番組を企画した。09年に独立し、多くの人気テレビや放送作家、クリエイターらのマネジメント会社の経営者になったという。日本舞踊家の坂東大藏、洋画家の飯田操もOBである。

音楽で才能を発揮した卒業生も多い。ギタリストの松田晃彦、クラリネット奏者の小畑忠洋、声楽家の林裕美子、東京交響楽団の首席ヴィオラ奏者の青木篤子、サックスの佐藤恭子、ピアノの竹内恵美、琴(三味線の新福かなら)である。

「原爆治療の父」
学者では兄がカフカ作品の翻訳をしたドイツ学者の池内紀、弟が宇宙物理学の池内了という兄弟がいる。

名門高校の校風と人脈

戦前からの動物道伝学者である駒井卓「原爆治療の父」といわれる外科医の都築正男、人工臓器の開発など再生医療の研究者である浅義人、歯学者で口腔がんの研究をしている高田隆、地球物理学者で南極観測の越冬隊長をした牛尾取輝ら卒業生である。



野田誠三

文系では、戦前の日本史学者である三上参次、経済学者の土方成美、国際法が専門で国連教科文化機関(ユネスコ)の国際生命倫理委員長をした位田隆一、考古学者で銅鐸研究の第一人者である難波洋三らがOBである。日本政治思想史が専門の大塚健洋は、姫路独協大学の学長をした。

法曹界では、4代にわたる姫中・姫西を卒業し、しかも4人とも司法試験に合格し弁護士になった2家がいる。安平重雄、和彦(武彦)である。最高裁判事をした元原利文は、衆院・参院連で「一票の格差」が争われた裁判で、「合憲」とした多数意見に対して「法の下の平等を反する」との反対意見を記した。

企業のトップ経験者は、阪神電鉄社長・会長で阪神タイガースのオーナー、23年間も務めた野田誠三、グループリーガの事実上の創業者である尾上

寿作、スバルのジャスコ社長をした二本英徳、大塚化学ホールディングス社長をした戸部昌信、住友商事の社長、会長をした植村隆雄、神鋼電機社長の佐伯弘文、西松屋チエーン社長の大村重らがいる。

大村は京都大大学院で金属工学の修士を修了。鉄鋼会社の研究員だったが、創業家だった妻の父に口説かれ着用品を売った西松屋に転職した。この店もカラカラで、すいている状態を保つ、という逆張りの理系の経営で全国に800以上も店舗展開し、業界トップ企業に躍り出た。

地元を根を張っている経営者では、米田徳夫(ヤマトヤシキ)、三宅知行(姫路信用金庫)、浜中英男(浜中製鋼工業)ら。山田美は、回転焼きというキャップフレーズで人気の御座候の2代目社長である。



沖 幸子

経済評論家として著作や講演に走り回っている。

姫路市長はすべてOB

私学経営で実績を発揮している卒業生がいる。新制1回卒の三木一正で、学校法人三木学園の2代目理事長を30年も務めている。兵庫県高砂市に白陵中・高校を、さらに岡山県にも姉妹校を開いている。白陵高校は兵庫県下で有名な進学校に育っている。

兵庫県の進学校といえば、昭和6年卒の姫中出身である。「政治家」の分野では、杉本和行が08年に財務事務次官まで上り詰めた。69(昭和44)年に姫西を卒業したものの、紛争のあおりで東大入試が中止になったため、京大法学部に入学した。翌年に再度受験をして東大法学部に入学し直

した。

公立の名門高校の卒業生は、地元自治体の首長になるケースが多い。その点、姫路市は徹底している。戦後の公選市長は、石見元秀・吉田豊信・戸谷松司・堀川和洋、そして現市長の石見利勝と、すべて姫中・姫西の出身者である。

このうち石見元秀と石見利勝は、実の親子である。利勝は立命館大教授(都市工学)だったが、父がけて戦後復興に邁進した親父の背中を見て育ったので、自分も郷里のために尽くしてみよう」と市長に転身したという。

昭和時代の弁士で衆議議長や文相をした清瀬一郎は、極東国際軍事裁判でA級戦犯の元首相東條英機(東京府立城北尋常中学、現部立戸山高教室)の弁士を務めたことでも知られる。

スポーツでは、プロ野球近鉄球団の監督や社長をした芥田武夫がOBである。姫中から早稲田大に進み、東京六大学リーグで活躍した。

(猪熊建夫・ジャーナリスト)
(敬称略)会社名・肩書などは当時。今回は鹿児島県私立ラ・サール高校)